

地域・海外リサーチセンター：ふくしま広野未来創造リサーチセンター	
題目	「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ (SI 構想)」の具体化と社会実装
著者	李洸昊、永井祐二、松岡俊二

概要

社会変革のトリガーとなる「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ (SI 構想)」を設定し、福島復興を多様な観点から議論を行い、SI 構想の具体化の検討も行った。特に、世代・地域・分野を超えて福島復興を議論する熟議の場（ふくしま学（楽）会）を地域のロールモデルとして構築したことは、本研究の大きな成果である。今後は、SI 構想を多様な社会的評価軸から継続的に具体化していくことを進めていく。

本年度の研究開発、成果

SI 構想の3本柱を中心に、福島復興を多様な観点から議論を行い、SI 構想の具体化の検討を行った。特に、多世代・多地域・多分野の「場（ふくしま学（楽）会）」の形成による地域還元・人材育成実践を地域のロールモデルとして構築したことは、大きな成果である。

ふくしま学（楽）会を通して、地元のふたば未来学園高校の高校生、NPO 関係者、地域住民、行政、大学の研究者が集結し、世代や立場による「しがらみ」を越えた対話の中で、本来の地域課題に関する議論・交流の場が形成された。



また、SI 構想を具体的なアクションに落とし込み、地域に根ざした継続的な社会変革を促進する研究基盤・研究者ネットワークを構築したことも大きな成果である。

具体的な研究活動は、SI 構想の3本柱のそれぞれの研究会を中心に行われた。

第1柱：1Fの事故遺産と記憶遺産の利活用(1F Heritage 構想)

「1F 廃炉の先研究会」を開催し、福島復興という視点

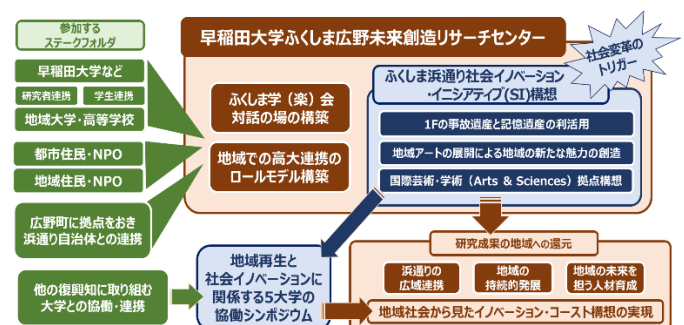
や福島原発事故の記憶の未来世代への継承といった多様な社会的評価軸から 1F の廃炉の先のあり方（地域資源化）を検討し、「中間報告」を取りまとめた。2020 年度は、これに基づき「福島・地域対話会合 (5/17)」として、浜通り地域の方々と議論を行い、さらに地域住民、東京電力、1F 廃炉の先研究会の「3者による地域対話 (10/29)」を実施した。

第2柱：地域アートの展開による地域の新たな魅力の創造

ふくしま浜通り文化育成と発信事業ワーキンググループの議論を踏まえ、複数のアーティストや研究者の参加による地域展開を支援し、地域でのアート+文化芸術による地域の魅力づくり・再生を実践した。

第3柱：国際芸術・学術 (Arts & Sciences) 拠点構想

さまざまな分野の専門家、地域の実践者で構成する A&S 研究会を開催し、科学技術社会論的な観点から「専門知」「地域知」における「境界知」のあり方を検討し、福島復興における博物館・ミュージアム構想を検討した。また、地域再生と社会イノベーションに関係する5大学の協働事業として復興知シンポジウムを開催し、福島国際教育研究拠点における社会科学分野のテーマづくりにも言及した。



次年度の研究計画

次年度も SI 構想実現に基づく浜通り広域連携を進めていく。浜通りすべての自治体からの参加のもと、ふくしま学（楽）会を実施し、これが仕組みとして地域に定着するようにする。本研究の成果が継続的に地域に受け入れられ、アップデートされるような持続的な枠組みを検討する。さらに、本研究に高校生のころから参加し、大学期間中も継続的に地域に関わり、卒業後も地域に貢献する人材育成のモデルも構築する。